

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

いよいよ夏休みがスタートする。多くの国内外からのお客様が訪れる地域に住む私たちが、見知らぬ訪れた相手にどんな対応ができるのか、地域を活性化

化する要因だと考え続けるべきなのだろう。米国の文豪、ジョン・スタインベックは熱中することの尊さを「天才とは、蝶を追っているまにか山頂に登っている少年である」と語っている。一つのこと

に、無心になれる人の姿は美しいと。夏休みには多くの体験を重ねてほしいと願ってしまふ。

地域に図書館施設の充実を望む声があったわって来る。慶応大総合政策学部・医療経済学の佐藤豪専任講師が中心となって実施した図書館と要介護リスクの関連について調査

した結果に注目した。慶応大と京都大の統計調査から、図書館や図書館の蔵書数が多い自治体ほど、その自治体の要介護高齢者が少ないとし、図書館や蔵書の充実といった文化財への公共投資が、健康

長寿の街づくりに有効であると示唆する調査結果だ。

今後地球温暖化で、私達地域に移住する高齢者が激増することは明白だ。それに伴う福祉や医療での地域負担の激増は避けられないのならば、図書館整備に関する費用を論ずるだけでなく、高齢者の

将来を見据えた、課題解決を望む

健康維持や健康増進につながる効果も視野に入れた地域施設の充実を考えるべきだろう。国税庁は今年1日に相続税や贈与税の算定基準となる2025年分の路線価を発表。白馬村村道和田野線が全

国1位の32.4%の上昇と発表した。和田野地域はリゾート地で不動産投資はますます活発化することは避けられないのだろう。現状の村道和田野線の拡幅は、今後の地価上昇に期待する地主や自然環

境を求める関係者からの賛同は困難だと推測される。現況を考えると新たなう回路の新設を考

えるべきではないだろうか。村道と並行して県道白馬岳線が位置している。和田野線最上部から県道白馬岳線に通行可能な道路整備が求められるだろう。標高差のある道路を整備させるのに県内でも伊那市の花の丘ループ橋・長野オリンピック道路整備事業で整備された山内町の十二沢橋・上松町の檜の里大橋などのループ工法による工事

で難工事を解決した事例もある。地域全体をこの様に開発させていくのかの視点論議を楽しみにしている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



白馬村神城東部地域を彩るアジサイ。小さな花が集まっているように見えることから「団らん」の花言葉が地域の温かさを伝えている